

決算に合わせて開示する高速道路事業関連情報（平成 26 年度）

1. 債務返済の状況

- (1) 財務諸表における債務状況
 - ① 債務残高の推移
 - ② 資金調達状況
 - ③ 有利子債務の平均利率
- (2) 債務返済計画における債務返済状況
 - ① 債務返済計画と実績の対比
 - ② 全国路線網の4社ごとに貸付料で返済する債務額を試算した債務残高の計画と実績の対比
 - ③ 高速道路会社も含めた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況（債務返済計画ベース）

2. 財務諸表のセグメント情報

- (1) 高速道路機構のセグメント情報
- (2) 高速道路機構のセグメント情報（全国路線網の高速道路会社所管分内訳）（試算値）
- (3) 高速道路会社の財務情報（高速道路会社情報の総括）
- (4) 高速道路機構と高速道路会社を合わせた資産と債務の状況（決算ベース）
- (5) 営業中高速道路の路線別資産額

3. 高速道路収支関連情報

- (1) 高速道路の収支率（試算値）
- (2) 路線別営業収支差（料金収入から会社の管理費を除いたもの）（高速道路会社情報の総括）
- (3) 金利の路線別配賦（試算値）

4. 建設・維持・管理の状況

- (1) 建設コストの計画と実績
- (2) 管理コストの計画と実績（高速道路会社情報の総括）
- (3) アウトカム指標の計画と実績（高速道路会社情報の総括）

5. 道路資産の保有及び貸付状況

注)「(高速道路会社情報の総括)」とは、高速道路会社から提供を受けた情報を一覧表形式にまとめたもの。

1. 債務返済の状況

(1) 財務諸表における債務状況

① 債務残高の推移

平成 26 年度中の独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」という。）の債務残高の推移は、下表のとおりです。

期首（平成 26 年 4 月 1 日）の債務残高は 29 兆 9,829 億円でしたが、期中に 9,881 億円の債務を引き受け（高速道路会社（以下「会社」という。）から道路資産とともに引き受けたもの）、4 兆 630 億円の返済及び 2 兆 4,750 億円の債券発行等を行った結果、期末（平成 27 年 3 月 31 日）の債務残高は、29 兆 3,925 億円となりました。

平成 26 年度の債務残高の推移

		平成 26 年度	(参考) 平成 25 年度
期首債務残高	A	29 兆 9,829 億円	30 兆 7,983 億円
債務引受額	B	9,881 億円	5,323 億円
債務返済額	C	4 兆 0,630 億円	4 兆 3,142 億円
資金調達額	D	2 兆 4,750 億円	2 兆 9,560 億円
債券発行差額償却による簿価増	E	95 億円	105 億円
期末債務残高	A + B - C + D + E	29 兆 3,925 億円	29 兆 9,829 億円

注 1) 資本金及び道路承継未払金（平成 25 年度末 378 億円、平成 26 年度末 907 億円）を含んでいません。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

債務種類別推移

[単位：億円]

債務の区分	借入金・債券（額面）					発行差額残高	期末簿価	(参考) 発足時	
	期首残高	当期増加		当期減少	期末残高				
		新規借入	債務引受	返済					
長期借入金	政府借入金（無利子）	4,090	—	—	536	3,554	—	3,554	7,800
	政府借入金（有利子）	4,079	—	—	522	3,557	—	3,557	87,693
	民間借入金	7,881	600	1,666	4,352	5,795	—	5,795	31,784
	計	16,051	600	1,666	5,410	12,906	—	12,906	127,276
債券	政府保証債	213,044	19,400	3,921	21,270	215,096	182	214,914	59,424
	政府引受債	6,460	—	—	6,460	—	—	—	145,832
	財投機関債	53,989	4,750	—	4,920	53,819	809	53,010	23,925
	縁故債	100	—	—	100	—	—	—	18,080
	その他の社債	6,450	—	4,300	2,450	8,300	—	8,300	—
	計	280,044	24,150	8,221	35,200	277,215	992	276,223	247,261
長期末払金 (東京湾横断道路建設長期末払金)	4,816	—	—	20	4,796	—	4,796	7,239	
債務計	300,910	24,750	9,887	40,630	294,917	992	293,925	381,775	
(うち有利子債務)	296,820	24,750	9,887	40,094	291,362	992	290,371	373,976	
資本金	54,643	391		—	55,035	—	55,035	43,712	
債務と資本金の合計	355,554	35,028		40,630	349,952	992	348,960	425,487	

注 1) 道路承継未払金（平成 25 年度末 378 億円、平成 26 年度末 907 億円）を含んでいません。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

② 資金調達状況

資金調達については、今後の金利上昇リスクを軽減して債務返済の確実性を高める観点から、「長期・固定」を基本としつつ、低金利環境を捉え、特に超長期（10年超）による調達割合を高める方針としました。

幅広いIRの実施による新たな投資家層の開拓やローン方式による新たな資金調達の導入等の取り組みによって、調達全体に占める超長期の割合を30%（平成25年度18%）まで高め、平均調達年限13.4年（平成25年度11.8年）で、総額2兆4,750億円を低利かつ安定的に調達しました。

平成26年度外部資金調達実績（概要）

調達手段	年限	回数	調達額	平均利率
政府保証債	10年	12回	1兆4,200億円	0.53%
	20年	12回	4,000億円	1.32%
	30年	4回	1,200億円	1.63%
	計	28回	1兆9,400億円	0.76%
民間借入金	10年	2回	400億円	0.54%
	15年	2回	200億円	0.70%
	計	4回	600億円	0.59%
財投機関債	5年	3回	600億円	0.16%
	10年	11回	2,200億円	0.56%
	15年	3回	400億円	0.95%
	20年	5回	1,050億円	1.35%
	30年	5回	500億円	1.73%
	計	27回	4,750億円	0.84%
合計		59回	2兆4,750億円	0.77%
平均調達年限		13.4年		
債務残高の平均残存年限		7.5年		

注1）平均利率は、調達額と応募者利回り又は借入利率を使った加重平均で表示しています。

注2）端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

平成26年度の資金調達の状況 **別添資料 P1-2**

③ 有利子債務の平均利率

有利子債務の平均利率は下表のとおり、期末時点で1.40%まで低下しました。

有利子債務の平均利率

		金額	平均利率
発足時（平成17年10月1日）の有利子債務残高		37兆3,976億円	1.80%
平成26年度期首時点の有利子債務残高		29兆5,738億円	1.46%
期中 増減	会社からの引受額	9,881億円	0.95%
	償還・返済額	△4兆0,094億円	1.32%
	外部資金調達額	2兆4,750億円	0.77%
	債券発行差額償却による簿価増	95億円	—
平成26年度期末時点の有利子債務残高		29兆0,371億円	1.40%

注1) 道路承継未払金（平成25年度末378億円、平成26年度末907億円）を含んでいません。

注2) 借入金に係る平均利率は借入額と借入利率を使った加重平均で表示し、債券に係る平均利率は、調達額と債券発行時の応募者利回りを使った加重平均（但し、「会社からの引受額」に含まれる債券は引受時の簿価と表面利率を使った加重平均）で表示しています。

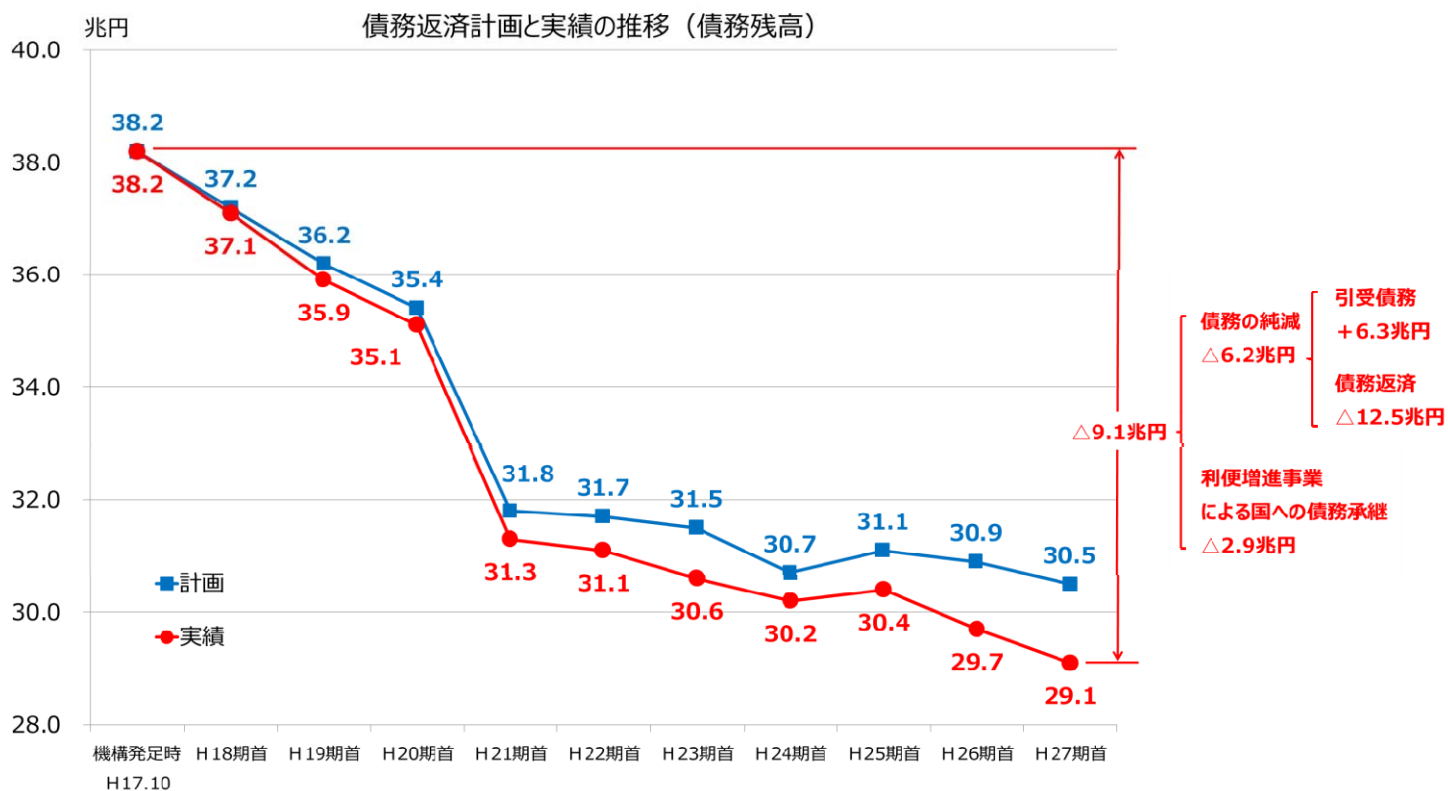
注3) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

(2) 債務返済計画における債務返済状況

① 債務返済計画と実績の対比

全国路線網などの債務返済計画について、交通量、金利水準など基礎的な前提条件を最新のものと見直すとともに、平成25年度までの実績（実績見込みを含む。）を反映して作成しています。

機構発足時以降の計画と実績の対比は以下のとおりです。



※ 債務返済計画では、決算と数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には決算数値を債務返済計画ベースに修正した数値を用いています。

平成 26 年度における債務返済計画と実績の対比の概要は以下のとおりです。

債務返済計画と実績の対比（総括表） **別添資料 P3-4**

平成 26 年度における債務返済計画と実績の対比（総括表概要）

[単位：億円（消費税込み）]

	合計	全国 路線網	首都 高速道路	阪神高速道路		一の 路線
				阪神圏	京都圏	
債務残高（平成 26 年度期首）						
計画(A)	299,174	228,870	39,956	29,054	1,067	228
実績(B)	296,794	226,513	39,875	29,081	1,128	196
差額(B)-(A)	△2,380	△2,356	△81	27	61	△31
会社からの引受債務 ^(注1)						
計画(A)	20,098	17,170	2,489	418	1	19
実績(B)	10,410	8,023	2,103	278	1	5
差額(B)-(A)	△9,688	△9,147	△386	△140	0	△14
収入						
計画(A)	19,093	14,962	2,335	1,676	56	65
実績(B)	21,559	17,612	2,302	1,541	25	79
差額(B)-(A)	2,466	2,650	△33	△134	△32	14
支出						
計画(A)	4,972	3,518	746	661	41	7
実績(B)	5,435	4,008	753	647	18	8
差額(B)-(A)	462	491	6	△14	△23	2
収支差						
計画(A)	14,121	11,444	1,588	1,015	15	58
実績(B)	16,124	13,604	1,549	894	6	71
差額(B)-(A)	2,004	2,159	△39	△120	△9	13
債務残高（平成 27 年度期首）						
計画(A)	305,151	234,595	40,857	28,458	1,053	188
実績(B)	291,080	220,932	40,429	28,465	1,123	130
差額(B)-(A)	△14,071	△13,663	△428	7	70	△58

注 1) 「会社からの引受債務」では、機構が国等からの出資金及び補助金を財源として高速道路会社に貸し付けた無利子借入金に係る債務は除いています。

注 2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

※ 債務返済計画では、決算と数値の扱いが異なる部分がありますので、計画実績対比を行う際には決算数値を債務返済計画ベースに修正した数値を用いています。例えば、未償還残高を計算する際には、現金、未収金・未払金の扱いが異なります。また、個別項目においても、消費税、減価償却費の扱いなどが異なります。

平成 26 年度期首債務残高は 29 兆 6,794 億円でした。平成 26 年度は、収支差 1 兆 6,124 億円、会社からの引受債務 1 兆 410 億円の結果、平成 27 年度期首債務残高は 29 兆 1,080 億円となり、平成 26 年度期首に比べ 5,714 億円減少し、計画に対しては 1 兆 4,071 億円下回りました。

債務返済における収入と支出の概要は以下のとおりです。

(会社からの引受債務)

会社からの新たな引受債務は 1 兆 410 億円で、計画を 9,688 億円下回りました。これは、平成 26 年度内に開通を予定していた新東名高速道路（浜松いなさ JCT～豊田東 JCT）の工事の完成予定が平成 26 年度から平成 27 年度に変更されたことや、既に開通した区間の残事業が継続していること等によるものです。

(収入)

収入の大宗を占める会社からの貸付料収入の増もあり、収入の合計は 2 兆 1,559 億円となり、計画を 2,466 億円上回りました。

(支出)

低金利の資金調達等によって支払利息が計画を下回った一方で、管理費等において、会社からの引受債務が計画を下回ったこと及び貸付料収入が計画を上回ったことから消費税の納付が増加した結果、支出の合計は 5,435 億円となり計画を 462 億円上回りました。

個別の債務返済計画における計画実績対比は別添資料 5 ページ以下のとおりです。計画と実績の差異の説明を付しておりますので、個別計画の実績との対比につきましては、こちらをご参照ください。

債務返済計画と実績の対比 **別添資料 P5-24**

- ② 全国路線網の 4 社ごとに貸付料で返済する債務額を試算した債務残高の計画と実績の対比
機構は中期計画において、全国路線網の 4 社ごとの貸付料で返済する債務を試算し、会社ごとの返済達成状況を公表することとしています。平成 27 年度期首の債務残高の計画と実績の対比は、別添資料 25 ページのとおりです。

全国路線網に属する高速道路における東日本高速道路㈱、中日本高速道路㈱、西日本高速道路㈱及び本州四国連絡高速道路㈱から徴収する貸付料を充てて返済を行う債務の額を高速道路会社ごとに試算した平成 27 年度（2015 年度）期首の債務残高の計画と実績の対比 **別添資料 P25**

- ③ 高速道路会社も含めた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況（債務返済計画ベース）

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定。以下「独法基本方針」という。）を踏まえ公表することとした、機構と高速道路会社を合わせた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況（債務返済計画ベース）は、別添資料 26 ページのとおりです。

高速道路会社も含めた高速道路事業全体の債務残高及び債務返済状況 **別添資料 P26**

2. 財務諸表のセグメント情報

(1) 高速道路機構のセグメント情報

機構では、より詳細な財務情報を提供することを目的として、高速道路事業の貸借対照表と損益計算書をセグメント単位（債務返済計画の策定単位ごと）に分けて表示しています。これは、機構の資産・負債あるいは収入・支出をセグメントごとに分解・再編集したものです。具体的には、道路資産及びその減価償却費、貸付料収入、旧公団から承継した債務及びその支払金利等のように各セグメントに直接賦課できるものは直接セグメントに賦課し、それ以外の機構の一般管理費や新たに発行した機構債及びその支払金利等は、各セグメントから得られる貸付料比率や借換率（当該期間における借換必要額の割合）などで按分して、結果を表示しています。

高速道路機構のセグメント情報（高速道路勘定・損益計算書）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	全国 路線網	地域路線網			一の路線	損益計算書 計上額
		首都 高速道路	阪神高速道路			
			阪神圏	京都圏		
経常損益	5,302	△201	37	△20	45	5,164
臨時損益	△16	140	89	13	△181	44
当期利益	5,286	△61	126	△7	△136	5,209

注) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

高速道路機構のセグメント情報（高速道路勘定・損益計算書） 別添資料 P27-28

高速道路機構のセグメント情報（高速道路勘定・貸借対照表）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	全国 路線網	地域路線網			一の路線	貸借対照表 計上額
		首都 高速道路	阪神高速道路			
			阪神圏	京都圏		
総資産	314,577	58,517	31,498	1,293	947	406,835
総負債	226,138	45,178	31,485	1,193	141	304,137
純資産	88,439	13,339	13	100	806	102,698

注) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

高速道路機構のセグメント情報（高速道路勘定・貸借対照表） 別添資料 P29-30

損益計算書では、首都高速道路、阪神高速道路（京都圏）及び一の路線の当期利益が赤字となっています。このうち、首都高速道路については、中央環状品川線などの資産帰属時に一時に計上する道路資産取得関連費用の大幅な増加が、阪神高速道路（京都圏）については、収入に比べて減価償却費と支払利息の負担が大きなことが、そして一の路線については、一般国道 201 号（八木山バイパス）の無料開放に伴う譲渡損の計上が要因となっております。

(2) 高速道路機構のセグメント情報（全国路線網の高速道路会社所管分内訳）（試算値）

機構の財務諸表のセグメント情報における全国路線網分を、さらに東日本高速道路(株)、中日本高速道路(株)、西日本高速道路(株)及び本州四国連絡高速道路(株)の各会社所管分に分けたものを試算しました。

高速道路機構のセグメント情報（損益計算書）
（全国路線網の高速道路会社所管分内訳）（試算値）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	東日本高速道路 (株)所管分	中日本高速道路 (株)所管分	西日本高速道路 (株)所管分	本州四国連絡高速 道路(株)所管分	合計
経常費用	4,015	3,085	3,569	482	11,153
経常収益	5,860	4,806	5,346	443	16,456
経常損益	1,844	1,721	1,776	△39	5,302
臨時損益	△2	△0	△13	△0	△16
当期利益	1,841	1,720	1,763	△39	5,286

注) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

**高速道路機構のセグメント情報（損益計算書）（全国路線網の高速道路会社所管分内訳）
（試算値）** **別添資料 P31**

高速道路機構のセグメント情報（貸借対照表）
（全国路線網の高速道路会社所管分内訳）（試算値）（概要）

[単位：億円（消費税抜き）]

	東日本高速道路 (株)所管分	中日本高速道路 (株)所管分	西日本高速道路 (株)所管分	本州四国連絡高速 道路(株)所管分	合計
総資産	101,387	91,444	98,215	23,530	314,577
総負債	85,069	59,201	73,767	8,100	226,138
純資産	16,318	32,243	24,447	15,429	88,439

注) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

**高速道路機構のセグメント情報（貸借対照表）（全国路線網の高速道路会社所管分内訳）
（試算値）** **別添資料 P32**

各会社所管分に区分してみると、損益計算書のうち、本州四国連絡高速道路(株)所管分については、収入に比べて減価償却費と支払利息の負担が大きくなっていることから、経常損益及び当期利益が赤字となっております。

(3) 高速道路会社の財務情報（高速道路会社情報の総括）

会社6社の財務情報を一覧表形式で取りまとめています。

高速道路会社連結損益計算書一覧	別添資料 P33
高速道路会社連結貸借対照表一覧	別添資料 P34

(4) 高速道路機構と高速道路会社を合わせた資産と債務の状況（決算ベース）

会社6社が借入金等により高速道路を建設し、供用の時点で機構がその債務と道路資産を引き受けるという仕組みの下では、建設期間中の道路資産・債務は会社が保有しています。機構の保有する道路資産（建設仮勘定を含む。）及びそれらに係る債務と、会社が保有する建設期間中の道路資産（仕掛道路資産）及びそれに係る債務を、債務返済計画の策定単位ごとに示し、機構と会社が保有する高速道路に関する資産と債務の状況を合わせて把握できるようにしています。

高速道路機構と高速道路会社を合わせた資産と債務の状況 別添資料 P35

独法基本方針を踏まえ公表することとした、機構と高速道路会社を合わせた高速道路事業全体の債務の状況の推移（決算ベース）は、別添資料 36 ページのとおりです。

高速道路機構と高速道路会社を合わせた債務の状況の推移 別添資料 P36

(5) 営業中高速道路の路線別資産額

平成 26 年度末の営業中の道路資産額は、39 兆 6,462 億円となります。

なお、全国路線網における道路資産価額の上位 10 路線は、以下のとおりです。

全国路線網における平成 26 年度期末資産価額の上位 10 路線

[単位:億円(消費税抜き)]

	道路名	資産価額
1	新東名高速道路	25,998
2	東名高速道路	15,585
3	山陽自動車道	14,863
4	中国自動車道	8,960
5	東北自動車道	8,853
6	関越自動車道	7,863
7	東海北陸自動車道	7,845
8	東京湾アクアライン	7,772
9	九州自動車道	7,768
10	道央自動車道	7,547

営業中高速道路の路線別資産額 別添資料 P37-42

3. 高速道路収支関連情報

(1) 高速道路の収支率（試算値）

旧公団は、高速道路の収支状況を路線別に「料金収入等（占用料収入等を含む。）」に対する「支払金利と管理費」の割合（収支率）で示してきました。民営化によって金利の支払主体が機構になり、収支状況を見る際に路線別に支払金利を配賦することが不適切になったため、路線別の営業収支差は（2）のとおり料金収入から会社の管理費を除いたもので示しています。一方で、機構の支払金利をセグメント単位（債務返済計画単位）に分けることは可能であることから、セグメントごとに「会社の料金収入」に対する「会社の管理費と機構の支払金利（建設仮勘定分を除く。）」の割合で平成26年度の収支率を試算した結果は別添資料43ページのとおりです。

いずれのセグメントにおいても収支率は100を下回っており、債務返済に向けたキャッシュフローが確保できていることが確認されます。

高速道路の収支率（試算値） **別添資料 P43**

(2) 路線別営業収支差（料金収入から会社の管理費を除いたもの）（高速道路会社情報の総括）

平成26年度の会社別の営業収支差（料金収入から会社の管理費を除いたもの）は下表のとおり、会社6社合計で1兆9,048億円となりました。

平成26年度の高速道路会社別営業収支差

[単位：億円（消費税抜き）]

	料金収入 A	管理費 B	営業収支差 A - B
東日本高速道路(株)	7,774	2,184	5,590
中日本高速道路(株)	6,339	1,727	4,611
西日本高速道路(株)	7,171	1,977	5,194
本州四国連絡高速道路(株)	615	174	440
首都高速道路(株)	2,508	613	1,895
阪神高速道路(株)	1,706	390	1,316
計	26,115	7,067	19,048

注1) 料金収入と管理費は会社の損益計算書上の値です。

注2) 端数処理の関係上、計が合わないことがあります。

注3) 西日本高速道路(株)の料金収入及び管理費は、機構の資産ではない関門トンネルの料金収入及び管理費を除いた値となっています。

なお、全国路線網における路線別営業収支差の上位 10 路線は下表のとおりです。

全国路線網における平成 26 年度路線別営業収支差の上位 10 路線

	道路名	交通量 [千台/日]	営業収支差 [億円（消費税抜き）]
1	東北自動車道	394	1,536
2	東名高速道路	409	1,353
3	山陽自動車道	237	815
4	九州自動車道	238	796
5	関越自動車道	205	679
6	中央自動車道	170	665
7	常磐自動車道	249	610
8	新東名高速道路	160	560
9	名神高速道路	172	540
10	東名阪自動車道	263	425

路線別営業収支差（高速道路会社情報の総括） **別添資料 P44-48**

(3) 金利の路線別配賦（試算値）

機構では、決算開示に合わせて、路線ごとの配賦金利として、営業収支差按分（フローに着目した配賦）と資産価額按分（ストックに着目した配賦）の 2 通りの試算値を収支計算から独立させた形で示すこととしました。それぞれの金利の路線別配賦（試算値）は別添資料 49～54 ページをご参照下さい。

金利の路線別配賦（試算値） **別添資料 P49-54**

4. 建設・維持・管理の状況

(1) 建設コストの計画と実績

平成 26 年度における建設コストとして、会社から引き受けた債務の計画(債務引受限度額)と実績(債務引受額)の対比を示します。なお、機構が会社から引き受ける債務は直接工事費と調査・設計に要した費用及び建設期間中に発生した金利などから構成されています。

平成 26 年度は 1 兆 1,277 億円^{*}の債務を引き受けましたが、全ての区間において引受額は限度額を下回っています。

^{*}高速道路会社が有利子で調達した債務と機構が国等からの出資金及び補助金を財源として高速道路会社に貸し付けた無利子借入金に係る債務の合計。

建設コストの計画と実績 **別添資料 P55-57**

(2) 管理コストの計画と実績(高速道路会社情報の総括)

ア 適切な維持、管理の実現に向けた枠組み

高速道路の維持、管理については、会社と機構が役割を分担し、実施しています。会社は、道路整備特別措置法に基づき、高速道路を常時良好な状態に保つように維持、修繕、料金徴収等を行うなど、有料道路としての高速道路の維持、管理に関する役割を担い、機構は、危険物積載車両の通行の禁止又は制限、特殊車両通行許可、車両制限令違反措置命令、道路占用許可など、道路管理者権限の代行を担当しています。

会社は、高速道路を良好な状態に保つために、維持、修繕等を行い、その実施状況を毎年度、機構に報告することになっています。機構は、会社から管理の実施状況について報告を受け、高速道路の管理に要する費用が何に使われているか、更には、会社が責任を持って行う管理の財源的手当てが十分に行われているかなどを実地にて確認し、必要に応じて協定変更を行うとともに、会社による管理の実施状況の情報の共有化等を図っています。

平成 26 年度は、老朽化対策にあたり大規模更新・修繕に関する計画について検討を加えるなど、新たな課題に対して積極的に関与し、道路資産が将来にわたって適切に良好な状態に保たれ、債務の確実な償還が果たせるよう、その具体的内容を反映した協定変更を速やかに行い、緊急に対応が必要な対策を会社が平成 26 年度から着手できるように措置しました。

イ 報告書の概要

前述したとおり、協定に基づき、高速道路の維持、修繕その他の管理の実施状況について毎年度、会社から機構に報告書が提出されます。

各会社が管理する高速道路は、構造や交通特性、気象条件等がそれぞれ異なりますので、具体的な取り組みは各会社独自のものとなります。このため、報告書には各会社を取り巻く状況やその他の要因を反映し、高速道路の管理に取り組んだ業務の実施概要、管理業務の成果あるいは目標に対する達成状況等が記載されています。平成 26 年度にとりまとめた平成 25 年度分の報告書からは、点検結果及び点検結果に基づく補修の実施数量とそれらに要した費用を記載する等の充実を図りました。

なお、各報告書・仕様書については、機構ホームページに掲載されておりますので、そちらをご覧ください。

ウ 管理コストの計画と実績

有料道路としての高速道路事業の枠組みにおいては、機構と会社との協定に基づき、計画料金収入から計画管理費を除いたものが貸付料となり、この貸付料により債務返済が行われます。このため、貸付料の算出に当たっての基礎的条件の一つである計画管理費と実績とを対比することが重要です。

平成 26 年度の各会社の管理コストの計画と実績の対比を一覧表にまとめています。管理コストの計画値と実績値の乖離は±5%程度となっています。また、内訳毎に見ると、維持修繕費については、雪氷対策費用の増、省令改正等による点検費用の増、点検結果等に基づく補修の増等により、実績値が計画値を上回っています。管理業務費については、実績値が計画値とほぼ同等であり、一般管理費等については、料金収受機械等の更新サイクル見直しによる減価償却費の減等により、実績値が計画値を下回っております。

管理コストの計画と実績（高速道路会社情報の総括） **別添資料 P58**

(3) アウトカム指標の計画と実績（高速道路会社情報の総括）

機構は、各会社の管理の状況について、ご利用いただくお客様の視点に立って、高速道路の利便性と安全性を分かりやすく示すための会社間共通の客観的指標（アウトカム指標：総合顧客満足度、死傷事故率など）を設け、会社間で対比するとともに目標の達成状況の確認を行うなど、管理水準や利便性の維持向上にも取り組んでいます。

平成 26 年度分からは、管理水準の一層の向上のため、会社と連携し、既存の 7 指標から利用者視点、交通安全、道路保全の 3 分野に整理した上で、必要な指標を追加するなど充実を図りました。

各会社が共通して公表している 11 の客観的指標について、6 社分を一覧表にまとめています。

アウトカム指標の計画と実績（高速道路会社情報の総括） **別添資料 P59-63**

5. 道路資産の保有及び貸付状況

機構は高速道路を保有し、会社に貸し付けることで、貸付料収入を得て、債務返済を行っています。機構では、平成18年3月31日に各会社と締結した協定の対象になっている路線について、保有及び貸付状況を管理するために各種の台帳類を整備・更新し、ホームページで直近の保有及び貸付状況を総括表と路線ごとの個別表により公表しています。

平成26年度は、常磐自動車道（浪江～南相馬、相馬～山元）等の新規供用により計192.2kmの増及び八木山バイパスの無料開放による13.3kmの減により、平成26年度末における高速道路の保有・貸付延長は、供用区間が9,991km、新設区間を合わせた総延長は10,149kmとなりました。

路線毎の個別表は、延長距離、区間、重要な経由地、区間毎の供用開始年月日など高速道路の状況を記録しています。

道路資産保有及び貸付状況（総括表）（平成27年3月31日時点） **別添資料 P64**